

(様式4) 継続事業中間評価調査 (平成31年度実施事業)

評価確定日(令和2年7月14日)

事業コード		政策コード		政策名	少年非行防止・保護総合対策の推進										
事業名	子供・女性を犯罪から守る安全活動事業	施策コード		施策名	非行少年を生まない社会づくりの推進										
		目標コード		施策目標名	少年の規範意識・防犯意識の向上										
部名	警察本部	課名	少年女性安全課	係名	少年サポート係	(tel)	3093	担当課長名	渡部 仁	担当者名	藤島 洋子				
<b>評価対象事業の内容</b>															
<b>1-1. 事業実施の背景(施策目的達成のための必要性)</b> 非行少年数は減少傾向にあるものの、悪質な非行事案が断続的に発生し、インターネットのSNS等を利用した少年の福祉を害する犯罪や、児童虐待、不審者からの声掛け事案が後を絶たない。よって、少年に有害な環境の浄化、少年の立ち直り支援、少年の健全育成活動の活性化等、総合的な少年非行防止・健全育成事業を継続し、少年の規範意識や防犯意識の向上を図る必要がある。					<b>3. 事業目的(どういう状態にしたいのか)</b> 非行防止・犯罪被害防止教室、立ち直り支援活動、有害環境の浄化活動が継続的に推進されることにより、少年の規範意識と防犯意識が向上するとともに地域社会の教育力が底上げされ、その結果、少年の非行や犯罪被害が減少し、少年の健全な育成が果たされる。										
<b>1-2. 外部環境の変化及び事業推進上の問題点</b> 少年を取り巻く環境が複雑・多様化しており、地域社会や家庭の教育力の低下が懸念される現状にあり、地域社会が一体となって少年非行防止・健全育成活動に取り組む気運の向上が課題である。また、少年に関する問題に、インターネット上のサイトの利用が深く関わっている現状にあり、少年や保護者に対する効果的な指導も喫緊の課題となっている。					<b>4. 重点施策推進方針との関係</b> <input checked="" type="checkbox"/> 重点推進事項 <input type="checkbox"/> その他の事業										
<b>2. 住民ニーズの状況(事業継続中に把握したもの)</b> ①ニーズを把握した対象 <input type="checkbox"/> 受益者 <input checked="" type="checkbox"/> 一般県民 (時期: 年 月) ②ニーズの把握の方法 <input type="checkbox"/> アンケート調査 <input type="checkbox"/> 各種委員会及び審議会 <input type="checkbox"/> ヒアリング <input type="checkbox"/> インターネット <input checked="" type="checkbox"/> その他の手法 (具体的に ) ③ニーズの具体的内容 立ち直り支援活動に参加した少年や保護者等から「学習支援活動のおかげで目的意識が生まれ、高校に合格できた。」「農業体験活動で農業に関心を持ち、農業高校への進学を考えた。」など、活動を通じて視野が広がり、将来につながる一助になったと感謝の声が寄せられている。また、非行・犯罪被害防止教室に参加した児童・生徒が高い関心を示しているほか、教育現場からも「寸劇やなまはげを活用し効果が高い。」との評価を得ている。					<b>5. 目的達成のための方法</b> ①事業の実施主体 警察本部、各警察署 ②事業の対象者・団体 県内の学校等(幼稚園・保育園を含む)、保護者、地域住民 ③達成のための手段 本県の伝統行事としてなじみの深い「なまはげ」を活用した非行・犯罪被害防止教室を効果的に開催するほか、大学生少年サポーター、少年指導委員等のボランティアと連携した少年の立ち直り支援活動、街頭キャンペーン、有害環境浄化活動等を通じて、地域ぐるみの健全育成活動を強力に推進する。										
					<b>6. 前回評価結果等</b> <input checked="" type="checkbox"/> 実施又は継続 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 再検討又は縮小・休廃止										
					<b>①指摘事項</b> 次世代を担う少年の健全育成に取り組む活動は、関係機関・団体が連携し、一体となって取り組むべきものであり、その必要性、効率性が認められる。したがって、実態に即した効果の上がる内容を模索し継続して推進する必要がある。										
					<b>②指摘事項への対応</b> 事業の継続に必要な予算の獲得に努めた。										
<b>7. 事業の全体計画及び財源</b>															
事業内訳コード		事業項目			左の説明				27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	R2年度	全体(最終)計画
		なまはげNEWS隊の活動に要する経費			警察職員等が「なまはげ」に扮して非行防止活動を行い、少年の規範意識、犯罪被害防止意識の向上を図る。				103	94	94	98	98	100	
		大学生少年サポーター活動経費			少年と近い年齢層の大学生による非行少年等の立ち直り支援活動のほか、街頭巡回活動、広報啓発活動を実施する。				330	330	220	220	220	220	
		歓楽街における環境浄化対策経費			風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律に基づく、少年指導委員の研修を実施し、活動の推進を図る。				211	211	211	211	211	211	
予算額(千円)									644	635	525	529	529	531	
財源内訳	国庫補助金									124	122	121	152	123	123
	県の債														
	その他の														
一般財源									520	513	404	377	406	408	

8. 事業の効果を把握するための手法及び効果の見込み

指標名 非行防止教室等開催数 (年度)

指標の種類  成果指標  業績指標

指標式 非行防止教室等開催数の増加を指標とする

①年度別の目標値(見込まれる効果)

指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	R2年度	最終年度
目標a	550	550	550	570	570	570	540	
実績b	545	538	554	577	608	534		
b/a	99.1%	97.8%	100.7%	101.2%	106.7%	93.7%	0.0%	
東北								
全国								

②データ等の出典 非行防止教室等開催数 (年度)

③把握する時期  当該年度中 月  翌年度 4 月  翌々年度 月

指標名 大学生少年サポーター活動数 (年度)

指標の種類  成果指標  業績指標

指標式 大学生少年サポーター活動数の増加を指標とする

①年度別の目標値(見込まれる効果)

指標	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	R2年度	最終年度
目標a	70	70	70	70	70	70	52	
実績b	86	78	54	60	37	33		
b/a	122.9%	111.4%	77.1%	85.7%	52.9%	47.1%	0.0%	
東北								
全国								

②データ等の出典 大学生少年サポーター活動数 (年度)

③把握する時期  当該年度中 月  翌年度 4 月  翌々年度 月

指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②具体的な把握方法

③把握した効果

④データ等の出典

⑤把握する時期  当該年度中 月  翌年度 月  翌々年度 月

所管所属長による評価

	評価結果
現状の課題に照らした妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c	<input checked="" type="checkbox"/> A
次代を担う少年の健全な育成のためには、児童・生徒を対象とした効果的な非行防止活動を継続する必要があるほか、効果的な立ち直り支援活動や有害環境浄化活動を一層推進する必要がある。	<input type="checkbox"/> B
住民ニーズに照らした妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c	<input type="checkbox"/> C
少年非行及び犯罪被害の防止について、地域社会が一体となって少年の健全育成に取り組むことが必要との認識が県民にあり、警察が主導して強力に推進していくことが求められている。	
法令・条例上の要請等	
【理由】	

事業目的の達成状況	評価の対象	対象外	評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> A
【理由】			<input type="checkbox"/> B
平成31年度、学校等からの要請で児童・生徒対象の非行防止・犯罪被害防止教室を534回開催した。また、児童・生徒と保護者等を対象に、情報モラルに関する指導を324回実施するなど教育現場から求められている活動を推進した。大学生少年サポーターによる少年の立ち直り支援を主とした活動については33回実施しており、それぞれ有効性が認められる。			<input type="checkbox"/> C

事業の経済性の妥当性	評価結果
<input checked="" type="checkbox"/> a <input type="checkbox"/> b <input type="checkbox"/> c	<input checked="" type="checkbox"/> A
【理由】	<input type="checkbox"/> B
比較的低額な事業費により、学校等における各種教室を通して、児童・生徒に直に効果的な指導を行うことができるほか、大学生少年サポーターをはじめとするボランティアの力によって、多くの少年を対象とした活動を実施できる。以上のことから費用対効果が高いと認められる。	<input type="checkbox"/> C

事業の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> A(妥当性が高い) <input type="checkbox"/> B(概ね妥当である) <input type="checkbox"/> C(妥当性が低い)
対応方針	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持で継続 <input type="checkbox"/> 見直して継続 <input type="checkbox"/> 休廃止
総合評価	少年の規範意識の向上や犯罪被害防止活動、次世代を担う少年の健全育成活動は、警察主導で学校等の関係機関と連携しながら行っていくことが望まれており、事業の必要性、効率性が認められることから、今後も社会環境や少年非行の実態を踏まえ、継続して推進する必要がある。

評価結果の当該事業への反映状況 (対応方針)

政策評価委員会意見 (諮問する事業についてのみ記載)